



行政・その他

命をつなぐ PROJECT

命をつなぐ PROJECT

活動期間 2011 年～

活動場所 知多半島 等

web <https://ecoreco.net/>

ポイント

知多半島において、企業それぞれが行っていた活動を結びつけ、アニマルパスウェイの新設など緑地帯を生態系ネットワークとしてつなげる活動を行っています。

背景・経緯

知多半島臨海部、大企業の工場や事業所がひしめく工業地帯に、全長 10km にわたる広大な企業の森があります。通称グリーンベルトと呼ばれるこの森は、約 50 年前に工業地帯と人々の生活圏とを隔てる緩衝帯として、各々の企業によって植樹されたものです。2010 年の CBD・COP10 を契機に、工業地帯の一部の企業では、生物多様性保全を意識した緑地整備が行われる気運が高まり始めましたが、それらの取組は限定的でした。これは、この工場緑地帯が企業所有の土地であることから、隣り合う敷地同士の土地は繋がっていても柵や壁で分断されていたため、企業の森は小さな緑地の集合体でしかありませんでした。

当活動はそうした背景をふまえ、多様な主体が連携し、情報共有、相互協力、地域啓発などを活発化させ、緑地群全体の生物多様性向上を目指すべく始まった活動です。2011 年に知多半島で“企業の緑がつなぐ、地域の絆と生態系”をテーマに当活動が開始されました。

目的

「命をつなぐ PROJECT」の直接的な前身は、2011 年度の『新しい公共の場づくりのためのモデル事業』に、NPO 法人日本エコロジスト支援協会が提案した知多半島臨海部における「生態系ネットワークの形成」と「次世代の担い手育成事業」が、県によって採択された事に始まります。環境問題に関する意識が高い大学生との連携事業に実績があった日本エコロジスト支援協会が、事務局として先導的な役割を果たし、連携する学生募集や支援を行いました。また、知多半島生態系ネットワーク協議会に名を連ねる企業のうち、知多半島臨海部に位置する、日本経済を支える複数の大企業が連携することになりました。行政・企業・NPO・学生・専門家など、多くの主体で構成される「命をつなぐ PROJECT」は、知多半島の緑地を地域共有の宝として捉え、生物多様性保全をネットワーク化する役割を担っています。

取組内容

企業緑地も上空から見るとひとつの緑地に見えますが、企業ごとの工場緑地はフェンスで分断されていました。企業それぞれのセキュリティを確保する一方で、動物の生息圏を狭める原因にもなっていました。そこで動物の生息圏拡大を目指し、アニマルパスウェイ（動物の通り道）を新設し、定点カメラでパスウェイの観察をすると、実際にタヌキがパスウェイを活用している姿を捉えることに成功しました。

また、侵略的外来種が生態系に与える悪影響を考慮し、ウシガエル、オオキンケイギク、孟宗竹などの継

取組キーワード	森林	里山	河川	湖沼	湿地
	海岸	公園	農地	野生生物の保護	外来種対策
	ふれあい活動の場の整備	生物多様性に配慮した製品	地産地消	環境教育・普及啓発	地域貢献
	協働	その他：			

続的な駆除活動を行いました。また、地域住民向けの外来種の問題啓発イベントを開催するなど、外来種対策を総合的かつ効果的に推進しています。ビオトープの新設活動では、生態系ネットワーク形成に向けて企業緑地内に水辺の設置を推進し、これまでに計7か所の水辺ビオトープ新設に至りました。

生きものの住処づくりでは、生きものの憩える緑地づくりを目指し、キツネの巣穴や鳥類の巣箱、トカゲのための石のマウンドなど様々な住処も新設しています。在来種の植樹活動では、生物多様性の保全に配慮した緑地づくりの一環で、在来種による植樹を実施しています。植樹は、連携している企業各社とともに、知多半島臨海部で定期的に行っています。



アニマルパスウェイ



ビオトープ整備

今後の展望

今後、さらなる「生態系ネットワーク向上」「次世代の担い手育成」に向け、企業関係者のみならず、地域全体に生物多様性の概念を普及啓発していきます。また、企業緑地群と内陸部をつなぐ、新たな生態系ネットワークづくりも始め、2017年には尾張横須賀駅に近いエリアにある大同大学のグラウンドの一角に、新たな生態系ネットワークの中継点とすべくビオトープを造成しました。毎年、新規に入会してくるメンバーも増えており、今後も若い人材の育成にも力を入れていきます。

ベストプラクティス
受賞団体コメント



久留宮小春さん

命をつなぐ PROJECT

命をつなぐ PROJECT は学生だけでなく企業や行政、NPO、専門家など、様々な組織が協力して生物多様性を守りつなぐために活動しています。今回の受賞は関係者全員の想いと努力が評価されたものだと思います。学生の活動を根気強く、愛情と愛着を持って受入れ応援してくださる関係者の皆様に心から御礼申し上げます。これからも地域の生物多様性をより豊かにするために取り組んでいきましょう！

市民団体・NPO

企

業

教育機関

行政・その他

豊橋市教育委員会、豊橋湿原保護の会、豊橋自然歩道推進協議会

いもう 葦毛湿原大規模植生回復作業

活動期間 2013 年～

活動場所 葦毛湿原 等

web http://www.toyohashi-bihaku.jp/?page_id=4594

ポイント

自治体が中心となり、様々な団体が協力しながら葦毛湿原の植生回復活動を行っています。複数の専門家の意見を聞くなどしっかりとした計画を作り、多くのボランティアを募って活動しており、ホームページなどによりリアルタイムで広報活動も行っています。

背景・経緯

愛知県指定天然記念物「葦毛湿原」と豊橋市指定天然記念物「ナガバノイシモチソウ自生地」では、遷移が進んで森林化することにより、湿地の面積が減少し、湿生植物が衰退していました。そこで、1987 年から 2012 年までに行った植生回復実験などの成果をもとに、葦毛湿原保護意見交換会での専門家の提言に基づき、2013 年から大規模植生回復作業を開始しました。

目的

遷移が進み森林化した湿地を再生・保護するため、保全生態学の成果と考古学の発掘調査の技術を融合させた手法を用いました。地層を分層して細かく管理し、地表面近くに多く含まれる土壌シードバンク内の埋土種子を効率よく発芽させ地上から姿を消した植物や絶滅寸前だった多くの植物を復活させることを目的に、大規模植生回復作業を行いました。

取組内容

湿地の復元や湿性植物の個体数の増加のための大規模植生回復作業の基本方針は、土壌シードバンクに眠っている埋土種子を効率よく発芽させ、湿地の再生や減少した植物の個体数の増加を目指すことです。予防原則に基づく順応的管理による生物多様性の保全を目標に、湿地およびその周辺環境の多様性の復元を目指しています。

作業の具体的な判断として、これ以上生物を絶滅させないためには、何をすべきかという点を重視しています。森林化した湿地を元の状態に復元するためには、森林化する以前の湿地として良好な時代の地表面（土壌シードバンクの上面）を検出し、その上の堆積物を考古学の発掘調査技術を援用し、地層を詳細に管理して抜根や植物の根の層、葉や枝等の有機物層の除去を行います。植生回復作業は、第 1 段階（湿地中心部の日照を確保する）、第 2 段階（森林化した湿地を復元する）、第 3 段階（湿地中心部の遷移を後退させる）、第 4 段階（恒常的な維持管理を行う）の 4 段階で進めており、現在は第 2 段階が終了間近の状態です。



植生回復作業

森林	里山	河川	湖沼	湿地
海岸	公園	農地	野生生物の保護	外来種対策
ふれあい活動の場の整備	生物多様性に配慮した製品	地産地消	環境教育・普及啓発	地域貢献
協働	その他：			

葦毛湿原では 1967 年から 2013 年までの間に、少なくとも 21 種の植物が地上から姿を消しました。しかし、大規模植生回復作業により、カガシラ（県絶滅危惧ⅠA類）、ヒメミミカキグサ（同ⅠB類）、ミカワシンジュガヤ（同Ⅱ類）など、14 種の植物が埋土種子などから復活しています。また、数が少なくなっていたミカワバイケイソウ、カザグルマ、ハルリンドウ、トキソウなどの湿生植物も開花数が顕著に増加しています。

事業の運営にあたり、豊橋市教育委員会が葦毛湿原保護意見交換会を組織し、文化庁、愛知県県民文化局文化芸術課文化財室、愛知森林管理事務所などの関係行政機関や複数の大学の研究者、有識者、ボランティア団体等多方面の関係者の協議のもとに事業を進めています。実際の作業では、豊橋市教育委員会の指導のもと、豊橋湿原保護の会、豊橋自然歩道推進協議会など、毎年延べ500名以上のボランティアも協力し、作業を行っています。ボランティアを中心に費用をかけず効率的な作業を行っており、これまでの7年間で延べ約26,260㎡の作業を行いました。また、豊橋市美術館のWEBページに「葦毛通信」を月1回程度掲載し、作業の方法や結果についてリアルタイムに公開しています。この活動は環境省発行の『日本の重要湿地』パンフレット（2017年3月発行、2019年3月改定）に「東三河・渥美半島湧水湿地群」として葦毛湿原での取組が紹介されました。

また、これまでに多くの団体から現地視察や活動報告を依頼されており、2014年8月には林野庁の「第2回保護林制度等に関する有識者会議」や、2020年1月には愛知県・名古屋市主催による「あいち・なごや生物多様性 EXPO」などでも活動報告を行っています。



植生回復作業後の葦毛湿原

今後の展望

今後も、行政・ボランティア・民間企業との協働を進め、生物多様性の保全を目標に、少ない費用でも多くの成果をあげられるように実施方法を改善し、全国各地で同様な取組ができるようにリアルタイムで情報を公開し、同じような活動をしている団体と情報を共有していくつもりです。

ベストプラクティス
受賞団体コメント



にょ 賀 元洋さん

豊橋市教育委員会、豊橋湿原保護の会、 豊橋自然歩道推進協議会

葦毛湿原では行政、ボランティア、専門家、企業が協力し、最小限の費用で大規模な植生回復作業を行っています。この方法により、地上から姿を消した植物が埋土種子から復活し、多くの成果が得られました。今回の受賞を機に、より多くの方に大規模植生回復作業を知っていただき、同様な取組が広がっていくことを期待しています。

なごや生物多様性保全活動協議会

なごやの生物多様性保全活動

活動期間 2011 年～

活動場所 名古屋市

web <http://www.bdnagoya.jp/>

ポイント

40 以上の市民団体・教育機関・専門家等が協働により、個別の団体の枠を越えて活動しています。構成団体の特徴を活かした 5 つの部会活動のほか、名古屋市全域で実施する市民調査等を継続して行い、名古屋の生物多様性の保全に大きな役割を果たしています。

背景・経緯

名古屋市には東部丘陵地を中心に 111 か所ものため池が現存しています。生物多様性条約第 10 回締約国会議（COP10）の名古屋市開催が決定したことを契機に、2008 年 10 月に「名古屋ため池生物多様性保全協議会」が設立され、地域住民・市民団体・行政が協働でため池の生物調査や保全活動を行ってきました。2011 年 5 月には、ため池に限らず他の生態系まで対象範囲を広げ、活動内容を拡充して「なごや生物多様性保全活動協議会」を設立しました。

目的

名古屋に生育・生息する生物及びその環境を継続的に調査し、生物多様性の現状を把握するとともに、外来種防除などを通し身近な自然の保全を実践することを目的に活動しています。

取組内容

協議会は 2020 年 3 月現在、43 の団体会員、24 の個人会員及び名古屋市で構成しており、参画する会員の特性を生かして 5 つの部会を設置し活動しています。

協議会では、「なごや生きもの一斉調査」として、毎年対象の種を定めて名古屋市内の公園・緑地等で市民参加の調査を行っています。協議会員がリーダーとなり、毎年 40 か所程度で期間を定めて調査することで、市内の生物多様性の状況を明らかにしています。2011 年以降の 9 年間で 3,200 人以上の市民が参加するなど、毎年多くの市民の方に参加頂いていることから、2018 年のアリ調査では名古屋市での初記録が 3 種、愛知県での初記録が 2 種見つかるなど、大きな成果を挙げています。

この他、2008 年から継続的に市内の池干しを行い、生きものを捕獲し生育状況を調査するとともに、外来種の駆除を行っています。これまでに 16 か所で池干しを行い、4,000 人以上の市民が参加しています。



一斉調査の様子



滝ノ水北池での池干し

森林	里山	河川	湖沼	湿地
海岸	公園	農地	野生生物の保護	外来種対策
ふれあい活動の場の整備	生物多様性に配慮した製品	地産地消	環境教育・普及啓発	地域貢献
協働	その他：			

その他、各部会において以下の取組を行っています。

●アカミミガメの防除

市内のため池・河川でカメ類の捕獲調査を行い、アカミミガメ等の外来種を除去しています。昭和区・隼人池ではほぼアカミミガメを除去することができました。

●カワバタモロコの保全

区画整理により生息地を失ったカワバタモロコを保護・繁殖し、地元小学校で環境教育を行っています。

●ヒキガエルの調査

ヒキガエルの確認についてアンケート調査を行うとともに分布調査を行い、保全施策を検討しています。

●オオキンケイギクの駆除

2015年から山崎川河川敷でオオキンケイギクの駆除活動を行い、大幅に減少させました。毎年5月には市民参加の抜き取り会を行っています。

●ササユリ保全

絶滅危惧種のササユリの自生地である平和公園と大高緑地で、ササユリの生育環境調査を行い、適切な保全対策を行っています。それにより開花の個体数が増えつつあります。



アカミミガメの防除

今後の展望

今後も市民・行政・企業と協働して生きものの調査・保全活動に取り組むとともに、市民参加の事業により生物多様性への関心を深めていきます。

また、様々な団体と連携するプラットフォームの役割を担い、政策提言機能も強化していきたいと考えています。

ベストプラクティス
受賞団体コメント



長谷川泰洋さん

なごや生物多様性保全活動協議会

ベストプラクティスの選定に感謝申し上げます。協議会は設立以来10年、微力ながらなごやの生きものや生態系の実態の解明とその保全に貢献してきたと自負しています。市民参加型調査の「なごやの生きもの一斉調査」や「池干し」は、延べ数千人以上に参加頂いています。この選定を励みに、益々活動を発展させていきます。今後も皆様となごやの生きもの調査、保全活動を盛り上げてまいります。

藤前干潟クリーン大作戦実行委員会

藤前干潟クリーン大作戦・ 流域交流と「ごみと水を考える集い」

活動期間 2004 年～

活動場所 名古屋市 等

web <https://cleanupfujimae.jimdo.com/>

ポイント

藤前干潟の保全等を目的に、年 2 回実施する「藤前干潟クリーン大作戦」には 150 団体、3,000 人以上が参加するなど、土岐川・庄内川の流域の市民団体・事業者・教育機関・行政が広く連携し活動しています。また、流域圏の漂着ごみゼロをめざして流域圏内の交流を進めています。

背景・経緯

藤前干潟は、日本有数の渡り鳥の飛来地です。市民活動により、1999 年 1 月に「ごみ処分場建設・埋立計画」が中止され 2002 年 11 月に「ラムサール条約登録湿地」となりました。

しかし、当時その岸边は家電、風呂おけ、ドラム缶等の大型ごみ、自転車・オートバイ、ペットボトルが「山となり」「厚いじゅうたんとなり」、流域からの漂着する生活ごみで覆われていました。

目的

2004 年 10 月 5 日に土岐川・庄内川流域で活動している 4 市民団体で「実行委員会」を結成し、同月 24 日に第 1 回藤前干潟クリーン大作戦を実施し、240 人が参加しました。

掲げた目的・目標は、①ラムサール条約登録湿地に恥じない藤前干潟にしよう ②子どもたちが安心して遊べる干潟や水辺を取り戻そう ③流域全体のごみや水のことを考えるネットワークの結成の三点です。

取組内容

毎年春と秋の年 2 回、「藤前干潟クリーン大作戦」として、清掃活動を行っています。これまでの約 16 年で合計 31 回開催し、延べ 37,770 人の参加があり、45 リットルのごみ袋合計 46,082 袋分のごみを集めました。さらに、2018 年秋の台風による高潮で、ヨシ原が漂流を阻止していた約 50 万本のペットボトルが岸边に集積されましたが、3 回の回収活動により、2019 年春にはすべて撤去しました。これらの活動は、地元自治会、行政、学生、企業の協働により実施しています。そして、ごみを撤去することにより、ヨシ原の保全、鳥類をはじめとする希少生物の生息域の確保が進みました。

環境学習として、2009 年秋の清掃活動以降、干潟観察会の開催や中学生による水質調査などを行っています。これらの環境学習により、子どもから大学生まで、藤前干潟に関する意識の変革がみられ、積極的に参加してもらえるようになりました。

さらに、2012 年以降、ヨシ原が枯れることの原因調査を行い、2018 年春から、植栽を行うことで保全活動を進めています。



藤前干潟クリーン大作戦

森林	里山	河川	湖沼	湿地
海岸	公園	農地	野生生物の保護	外来種対策
ふれあい活動の場の整備	生物多様性に配慮した製品	地産地消	環境教育・普及啓発	地域貢献
協働	その他：河川・干潟美化活動、上下流交流等流域交流			

なお、2012年1月以降漂着ごみの生まれない流域を目指して、毎年1月に「藤前干潟 伊勢・三河湾のごみと水を考える集い（略称：ごみと水を考える集い）」を開催しており、記念講演や調査等の特別報告の後には、市民団体と行政が一同に会して話し合いを行っています。

特に、2020年1月に開催された第9回の集いでは、近年のマイクロプラスチック問題が伊勢湾及び庄内川で顕在化していることを受け、ワークショップで問題意識を共有しました。

なお、流域圏交流では、庄内川最上流の岐阜県恵那市の三郷の川のクリーン大作戦との14年間にわたる相互の活動への参加や、愛知・岐阜・三重三県の市民団体で組織している「22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会」の伊勢湾を軸とした清掃活動等に積極的に参加しています。



ヨシ植栽会



干潟観察会



第9回ごみと水を考える集い

今後の展望

土岐川・庄内川は、社会問題化しているマイクロプラスチックの流下数密度が暫定値であるものの全国1位との調査結果が明らかになりました。石油由来漂着ごみのクリーンアップ活動は、新たな段階に入ったと認識しています。

流域一帯による取組の一層の推進に合わせ、河川・海のマイクロプラスチック化阻止の啓発活動を強化することが何より大切と認識しています。

ベストプラクティス
受賞団体コメント



坂野一博さん

藤前干潟クリーン大作戦実行委員会

名誉ある賞をいただきまして、まことにありがとうございます。2004年から藤前干潟クリーン大作戦にご参加いただきました37,770人の皆様のお陰と感謝いたしております。清掃後の水質・ヨシ調査や干潟観察会で、生きものの命の繋がりに感じてください。受賞につながったと思います。コロナ禍の今10月31日（土）秋の藤前干潟クリーン大作戦が実施できますことを願っています。

岩倉市

ビオトープ「岩倉市自然生態園」

活動期間 1996 年～

活動場所 岩倉市自然生態園（岩倉市北島町）

web <https://www.city.iwakura.aichi.jp/0000000119.html>

岩倉市自然生態園は、市街地からすぐの田園集落の一角に鎮守の森と一体のものとして、市民が身近な自然にふれ合う場として整備され、年間約 8,000 人が来園しています。とんぼ池をめぐる 1 周 300m の小さなビオトープ公園は、季節ごとに野鳥が飛来し、虫たちが暮らす場所です。

当園では、市民団体の岩倉ナチュラリストクラブとともに、25 年前から岩倉市自然生態園の環境保全やイベントの開催を岩倉市と協働で行ってきました。

年間イベントとして、外来種駆除（ザリガニ釣り大会）、夜の昆虫等の観察会、昆虫の標本づくり、カエルとふれあおう、とんぼ池であそぼう、どんぐり工作体験など多様なプログラムを開催しています。また、「いきもの探検隊（市民や市民団体の参加）」による自然観察会を行い、「いわくら生きものガイドブック」を作成しました。ほかにも、毎年岩倉ナチュラリストクラブによる生きもの調査を実施しています。

取組キーワード

里山

外来種対策

ふれあい活動の場の整備

環境教育・普及啓発

協働



ザリガニを釣る人たち



水の中の生きものとのふれあい

榎前環境保全会

水田魚道で郷里づくり

活動期間 2007 年～

活動場所 水田魚道（安城市榎前町）等

web -

安城市榎前町では、水田や水路の維持管理に住民が参画できないかと考えていました。2006 年に愛知県農業総合試験場の水田魚道の現地実証地に選定されたことを期に、環境保全会が中心となり水田魚道を核とした地域協働の生物多様性保全活動を開始しました。

水田魚道により、ドジョウ、フナ類、ナマズ等が水田に遡上できるようになり、今では 4 ha の水田に広がりました。子どもたちと一緒に実施している「農業体験」や「水田魚道観察会」（年間 20 回程度（6 月から 9 月 週 2 回））を 13 年以上継続して調査しています。これらを継続的に実施することで水田農業への関心が高まり、水田魚道を設置した水田で収穫したお米、「どじょうの育み米」のブランド化を進めています。また、毎年 7 月には農業総合試験場・生協・JA・経済連などと連携して「田んぼの生きもの観察会」を開催。消費者 200 名以上の参加を得て、米の栽培環境や生きものの豊かさを実体験してもらっています。子どもたちと一緒に活動することで、若い保護者など、町内会活動への積極的な参加といった波及効果もありました。

取組キーワード

農地

ふれあい活動の場の整備

生物多様性に配慮した製品

地産地消

環境教育・普及啓発



農業体験 初めての田植え



田んぼの生きもの観察会

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

岡崎市

ホタルマスターファミリー講座（岡崎市ホタル学校）

活動期間 2013 年～ 活動場所 岡崎市ホタル学校（岡崎市鳥川町） web <https://www.city.okazaki.lg.jp/index.html>

ホタルマスターファミリー講座は、各種環境教育プログラムを体験しながら、段階的にホタルの生態や生息環境への理解を家族で深めていくものです。6回の講座を継続して受講することにより、家族みんなでホタルについて学んだり、実際に外に出て川や周辺の自然を観察したりします。ここでの発見や感動を分かちあうという経験を通して、ホタルや自然環境への理解だけでなく、家族の絆を深め、楽しい思い出としてもらえる内容です。

おかざき水とみどりの森の駅事業

活動期間 2006 年～ 活動場所 おかざき自然体験の森（岡崎市ハッ木町） 等

水とみどりの森の駅は、豊かな自然環境を将来にわたって継承していくキーステーションとなっています。ここを拠点に、人と自然がふれあい、自然と共生する文化を引き継ぐことを目的としています。各環境学習施設では、市民団体との協働による自然体験学習や、教育機関との協働による外来種対策のほか、各種環境学習イベントの実施などの様々な取組を通して、自然環境の保全や活用について市民の協力や理解を深めています。

取組キーワード

森林

里山

河川

野生生物の保護

環境教育・普及啓発



ホタルの里の昆虫と植物調査

里山

外来種対策

ふれあい活動の場の整備

環境教育・普及啓発

地域貢献



おかざき自然体験の森で環境学習

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

春日井市

春日井市自然環境保全活動推進員

活動期間 2005 年～ 活動場所 春日井市内
web <http://city.kasugai.lg.jp>

本市では、自然環境の保全に関する知識の普及や自然環境保全活動を推進することを目的に、春日井市自然環境の保全を推進する条例に基づき 2005 年度から自然環境保全活動推進員を任命しています。この推進員には、自然環境の保全を推進する様々な活動を行う地域のリーダーとしての役割を期待して、養成講座を修了した市民に委嘱し、29 名が活動しています。

2019 年度は、市民への自然環境に関する知識の普及を目的とした学習会を年に 3 回程度開催し、小学生やその保護者などの延べ 167 名の一般参加者が参加しました。また、自然環境保全活動推進員のスキルアップを目指してステップアップ講座を年に 6 回程度実施しました。その他、希少種保護のため、市内東部の地域で月に 1 回程度で定期的に巡回活動を行っています。今後も市では自然環境保全活動推進員の委嘱を通じて、自然環境保全の人材育成を推進していきます。

取組キーワード

里山

野生生物の保護

環境教育・普及啓発

協働



ステップアップ講座の様子



自然観察会の様子

春日井市少年自然の家

自然学校【里山木こり体験】、里山体験【田んぼと森の学校】

活動期間 2013 年～

活動場所 春日井市少年自然の家（春日井市廻間町）

web <https://www.spofure-kasugai.or.jp/natures/>

人が森・雑木林に手を加えたり、間伐することで、明るい自然豊かな森・雑木林にする必要があります。また、米作り体験により、田んぼと雑木林に暮らす多様な生きものを知り、その保全について学ぶことも大切であり、学習機会の提供のために 2013 年から当事業を開始しました。

主な活動として、里山木こり体験では、伐採や林床管理により、地表に光が届く健全な森に育て、多様な生きものが棲める森にするために活動しています。市民参加体験型の催しでは、『手を加えた自然にこそ自然がある』をモットーに雑木林の間伐体験、薪割り、炭焼きやシイタケの菌打ちなど里山文化を楽しむようにしています。また、田んぼと森の学校としての里山体験では、子どもたちが里山環境で自然体験活動をする中で、豊かな自然、生物多様性を知り、その持続可能な活用や保全について学ぶ機会を創出するために活動しています。小学校の高学年を対象とし、餅米の種粃の播種から始まり、田植え、除草、稲刈り、はざかけ、脱穀、精米、餅つきを行っています。

取組キーワード

森林

里山

生物多様性に配慮した製品

地産地消

環境教育・普及啓発

協働



木こり体験



里山体験

幸田町

自然観察会

活動期間 2004 年～

活動場所 石川（幸田町大草）等

web <https://www.town.kota.lg.jp>

幸田町は、自然に囲まれた町です。幸田町環境基本計画に基づき、幸田町の自然と触れ合える機会を提供することで自然の大切さを肌で感じてもらう、住民の環境に対する意識を啓発するために 2004 年から環境学習を実施しています。

幸田町の川で行われた水生生物観察会では、小学生等を対象に、2 か所の川で水生生物観察を行っています。講師から川で見られる魚の特徴、雄雌の見分け方や特定外来生物の説明を受けるとともに、流域モニタリング調査を行っています。小学生などの夏休みの自由研究の場となり、子どもたちが川の生物多様性について考える機会となりました。また、「秋の健康の道を歩こう！」という企画では、講師から植物の説明を受けながら「健康の道・遠望峰山（里山散策）コース」を散策し、里山の様々な生態系の存在にも気づき、里山の自然について学んでもらっています。その他、野鳥観察会では、町内の池（5 か所）で野鳥観察を行い、講師には、それぞれの池で見られる鳥の説明をもらっています。

取組キーワード

里山

河川

環境教育・普及啓発



自然観察会



水生生物観察会

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

江南市 環境課

江南市環境学習会（五条川の岸辺づくり、植栽作業）

活動期間 -

活動場所 五条川（江南市小折町）

web <https://www.city.konan.lg.jp/event/kankyoku/1007604/index.html>

本市では、子どもたちに対して自然の大切さを学ぶ機会や場所を提供する中で、環境教育の一環として、河川に水生植物を植栽し、生きものが住みやすい環境を作り、緑を含めた生物多様性を保全する活動を行ってきました。活動に参加した子どもたちや、その家庭の親世代を含め、自然を大切に思える「人づくり」と生物多様性の保全に繋がる「緑づくり」を進めていき、人と自然が共生できる地域づくりを行っています。

環境教育として、小中学生向けの環境学習会を年10回程度開催しており、その中で、五条川の生物多様性の保全をテーマに2回実施しました。5月に川の石や礫を集め護岸を造成、8月にヤマアゼスゲ、ショウブ等の水生植物の植栽を行うとともに、あわせて生きもの観察、清掃活動を行いました。アンケート調査により、生きもの大切さを知る効果を把握できました。今後も岸辺づくりと植栽活動を続け、生きもの豊かな五条川を目指します。

取組キーワード

河川

環境教育・普及啓発



五条川での生物調査



五条川の岸辺づくり

生物多様性の保全

生物多様性の持続可能な利用

その他（教育・啓発等）

サギと高速道路の共生を考える会

サギと高速道路の共生に向けた活動

活動期間 2010年～

活動場所 東名阪自動車道 蟹江IC（蟹江町）等

web <https://www.aichi-park.or.jp/yachou/>

東名阪自動車道のインターチェンジ内の園地等におけるサギの営巣活動が、通行車両の交通安全上の問題となっていました。そこで、2010年から中日本高速道路（株）、弥富野鳥園、日本野鳥の会愛知県支部が連携・協力して、高速道路の機能と安全を損なうことなく、サギの生息環境を保全し、自然（サギ）と人（高速道路）との共生に取り組んでいます。

保全活動として、営巣を許容するエリアと禁止エリアを定め、営巣許容エリアでは、フェンスのかさ上げなどによりサギの飛翔・活動エリアと高速道路通行車両を分離したり、デコイの設置などによる誘導策を、営巣禁止エリアでは、樹木の剪定や草刈りなどによる営巣環境の管理を実施しました。営巣数等のモニタリングや見学会、活動に関する環境教育冊子の配布などの広報も行いました。また、専門家を含めたサギとの共生を考える会を年3回開催し、関係者の情報交換をしています。

この活動の結果、サギと通行車両の衝突事故が約9割削減でき、毎年、4,000羽以上の営巣が継続しています。

取組キーワード

里山

野生生物の保護

その他：高速道路



モニタリング調査



樹木剪定作業

新城市（鳳来寺山自然科学博物館）

奥三河の自然を学ぶエコミュージアム

活動期間 2019 年～

活動場所 新城市

web www.city.shinshiro.lg.jp/

奥三河地域には豊かな自然や希少な動植物が数多く存在しており、後世まで残すべきかけがえのないものです。鳳来寺山自然科学博物館では、自然環境の大切さや保全の必要性を広く周知するため、鳳来寺山を中心とした奥三河地域の動物、植物、菌類などの調査、研究や教育普及活動を行ってきました。

2019 年度は、新城市を中心とした奥三河地域の自然をテーマとした多彩な環境学習講座を 4 回、自然をテーマにした特別展を 2 回開催しました。

この環境学習講座は、風切山の里地・里山、桜淵のきのこなどをテーマとして、特別展は、きのこ、教科書と自然を題材として、これらには年間約 2,400 人と多くの方が参加しました。

今後も環境学習活動を継続し、魅力ある学習会や展示を目指し、より広く奥三河地域の自然の豊かさを周知できるように努めます。

取組キーワード

里山

河川

環境教育・普及啓発



野外学習会「朝霧湖周辺の紅葉」



野外学習会「風切山・里地・里山の新緑」

瀬戸市 環境課

瀬戸市の第 2 次環境基本計画では、「自然を守る」をテーマの 1 つとしています。これに基づき、毎年、実際の野生動植物を題材にして、環境教育と環境啓発を兼ねた「せと環境塾」を実施しています。

せと環境塾

「水生生物調査～カメ博士の矢部先生とカメや魚を捕まえよう～」

活動期間 2015 年～

活動場所 定光寺正伝池（瀬戸市）等

web -

瀬戸市内（定光寺正伝池及び水野川）に生息するカメや水生生物を捕獲する体験をして、その後専門家から捕獲した生物の説明を受けて、外来種対策や生物多様性の大切さを学びます。

せと環境塾「生物多様性とオオキンケイギク駆除」

活動期間 2015 年～

活動場所 瀬戸川（瀬戸市）

専門家から生物多様性などの生態系や外来種に関する講義を受けた後、実際に瀬戸川沿いのオオキンケイギクを駆除しています。

この活動により、オオキンケイギクが外来種と認識した住民が、町内清掃として自主的に駆除活動を実施するようになりました。

取組キーワード

河川

湖沼

外来種対策

環境教育・普及啓発



ガサガサ体験

河川

外来種対策

環境教育・普及啓発

地域貢献

協働



オオキンケイギク駆除

豊川市赤塚山公園

小学校との連携で行う川の生き物調査

活動期間 2013 年～

活動場所 学区内の河川（豊川市） 等

web <http://www.akatsukayama.jp/>

当園は、豊川とその流域にすむ生きものを展示する「ぎょぎょランド」や小動物園を有する豊川市の総合公園です。子どもたちに川に興味を持ってもらうきっかけづくりと教育を担う施設として地域に貢献するため、2013 年に開園 20 周年を記念し、地元小学校を対象にした出前授業を開始しました。

出前授業では、小学生と一緒に川で生きものを採集し、それをぎょぎょランド館内に設置した水槽で展示する「平尾小学校ミニ水族館」を実施しました。それ以降、年に数回、複数の小学校とこうした活動を実施し、延べ 2,280 人が参加しています。

この活動で、地域の河川の魚類相データの蓄積や展示への活用をするとともに、地元の人々に自然の美しさや不思議さに気づいてもらい、地元の価値を見直すきっかけにしてもらいたいとも考えています。

今後も、活動を継続して地域の教育を担う施設としての役割を果たしていきたいです。

取組キーワード

河川

環境教育・普及啓発

地域貢献

協働



採集した生きものの解説を行う飼育員



川に入り生きものを採集する子どもたち

豊橋市

豊橋市におけるアカウミガメの保護調査活動

活動期間 1992 年～

活動場所 表浜海岸（豊橋市） 等

web <http://www.city.toyohashi.lg.jp/7150.htm>

太平洋に面する遠州灘は、愛知県内において「表浜海岸」と呼ばれ、広い砂浜やそこに広がる海浜植物、雄大な海食崖を有するなど、大変豊富な自然に恵まれています。

この表浜海岸には、毎年 5～9 月、豊橋市表浜海岸にアカウミガメ（県絶滅危惧種 IB 類）が、産卵のため上陸しています。

当市では、1992 年からアカウミガメの実態調査、自然観察会、出前講座、表浜海岸の保全整備事業などを行ってきました。

実態調査は、調査員による上陸産卵調査やふ化調査を実施しており、1 巣あたりの産卵数は平均 111、ふ化調査巣数は累計 906 となっています（1992 年～2019 年）。また、毎年、調査データを報告書に取りまとめて公表しています。

今後も、アカウミガメが上陸する表浜海岸の現状と自然保護の重要性を周知するとともに、海岸の保全に努めていきます。

取組キーワード

海岸

野生生物の保護

環境教育・普及啓発



ふ化調査



自然観察会

豊橋市自然史博物館

カタツムリ調査隊

活動期間 2012年～2013年 活動場所 豊橋市

web <https://www.toyohaku.gr.jp/sizensi/>

陸産貝類（カタツムリやナメクジ）は、地面を這ってしか移動できない移動能力の低い生きものです。このため、生息場所の自然環境の豊かさを知る指標にもなります。また、市内の陸産貝類の分布を明らかにするためには、市民参加による調査が有効であると考えます。この市民との協働した調査の実施により、身近な生きものである陸産貝類に興味を持ってもらうことができます。

2012年に実施した市民が参加した調査は、カタツムリやナメクジの写真を撮影してメールで送ってもらう「写メ隊員」と、カタツムリを採集してもらう「採集隊員」という2通りの方法で行いました。その結果、合計34種の陸産貝類が見つかり、コハクオナジマイマイが県において初記録の確認となり、ウスイロオカチグサは、豊橋市内の初記録の確認となりました。これらの結果は、研究報告書にとりまとめ、論文で報告しました。翌2013年には、豊橋市自然史博物館で、集まった標本や分布図を展示する特別企画展を行い、広く市民に公開しました。今後、陸産貝類の分布の変化について、モニタリングをしていきたいと考えています。

取組キーワード

環境教育・普及啓発

協働



市民参加募集チラシ



特別企画展

東浦町

東浦自然環境学習の森保全活動

活動期間 2009年～ 活動場所 東浦自然環境学習の森（東浦町大字緒川）

web <https://www.town.aichi-higashiura.lg.jp>

東浦自然環境学習の森は、南北に細長い谷戸地形を形成し、水田やため池、ヨシ原、コナラやクスノキなどの森、竹林が一体となった里地里山景観を形成しています。そこには、カヤネズミやホンドギツネ等が生息しており、住民が自然に触れ、人と自然との関係を学び、人と人との交流・生きがいを感じる場となっています。この貴重な生態系を有する環境の保全活動を、2009年から地元自治会や地元企業等と協働しながら実施しています。

森林エリア、竹林エリア、水辺（湿地）エリアに分け、各エリアの計画目標を定め、里山や竹林の整備、ビオトープづくりなどの保全活動を実施しています。また、活動を継続的に実施するため、活動団体の代表者や地元自治会長、企業の担当者等による「保全・育成の会」を組織し、意見交換を行っています。保全活動では、タケノコ掘り活動や自然観察会の開催、環境保全リーダー育成講座、大学と共同したホンドギツネの生息調査などを行っています。

取組キーワード

里山

野生生物の保護

外来種対策

環境教育・普及啓発

協働



稲作活動の様子



企業連携による保全活動

碧南市

オオキンケイギク一斉駆除

活動期間 2015 年～

活動場所 矢作川河川敷（碧南市前浜町）

web <https://www.city.hekinan.lg.jp/>

本市では、第2次碧南市環境基本計画により「外来種駆除推進プロジェクト」を定めました。この中で、市内各所で生育が確認されている特定外来生物のオオキンケイギクに着目し、生態系に悪影響を及ぼしている外来種の駆除を進め、市民に対し正しい知識の普及と啓発に努めるため、2015年からオオキンケイギク駆除・啓発活動を実施しています。

矢作川河川敷（碧南市前浜町地内）で、花の開花時期に合わせて毎年5月下旬までに駆除を実施しています。主な参加者は、碧南市、へきなん市民環境会議、碧南高校の生徒、市民であり、根まで掘り取ることを事前に確認のうえ、駆除を行っています。また、西三河南部生態系ネットワーク協議会の連携事業として、西尾市側の矢作川河川敷でも駆除を実施しています。

今後も継続的に駆除活動を続け、市内の他の地域での活動も行い、市民一人ひとりにオオキンケイギクの駆除の必要性を広く普及していきます。

取組キーワード

河川

外来種対策

環境教育・普及啓発

協働



協力しての駆除作業



オオキンケイギクの処分

三河湾環境チャレンジ実行委員会

三河湾環境チャレンジ

活動期間 2005 年～

活動場所 竹島（蒲郡市） 他

web -

蒲郡市に住む子どもたちが、地元の海や生きものに触れることで、海の環境について学習する機会を創出したり、郷土に関する関心を育むことを目的に、当会の活動を開始しました。また、2003年に三河湾で起きたアオサの大量発生という問題の解決に臨むべく、同じことが繰り返されないために、自然環境保護のための活動をすることも目的としています。

主な活動内容は、蒲郡市内の小学校を対象に、地元の海（三河湾や竹島）の沿革や、そこで生活する生きものについての導入座学を行い、その後、実際に海に出てフィールドワークを行いました。フィールドワークでは、海の観察や生きもの採取を行い、様々な専門機関や有識者を講師として招き、子どもたちが抱く生命の不思議や環境について学習しました。採取した生きものは学校に持ち帰り、図鑑等を用いて生きものの生態を調べ、自分だけのオリジナル図鑑を作成しました。また、作成した図鑑は、実行委員会事務局のある「蒲郡市生命の海科学館」に展示しました。

取組キーワード

海岸

環境教育・普及啓発

地域貢献



図鑑作成



生きもの探し

矢作川感謝祭実行委員会

矢作川感謝祭

活動期間 2009 年～

活動場所 矢作川（豊田市）等

web <https://yahagigawa-kansyasai.jimdofree.com/>

矢作川は上水道、工業用水、農業用水などで流域住民の生活を支えると同時に、アユやウナギなどの回遊魚をはじめ多くの生きものを育んでいます。当実行委員会は、今一度、矢作川の恩恵に感謝し、川の魅力を多くの人々に伝え、共感と行動を呼び起こすことを目指して活動しています。

流域での人々の暮らしや豊かな生態系を支えている矢作川の重要性を啓発するために、国土交通省や NPO と連携して、2009 年から毎年、矢作川感謝祭を開催しており、毎年 1,000 人規模の参加者が集まっています。

具体的には、「釣ろう!」「食べよう!」「遊ぼう!」「見よう!」といったテーマのもとで、魚釣り大会、塩焼アユの販売、川遊びや間伐材遊具の設置、矢作川移動水族館など、様々な活動メニューを実施しています。今後は流域の市町村や様々な団体などと連携し、参加者が楽しみながら環境について学べる取組を行っていきます。また、多くの人々に川の魅力や重要性をより深く知ってもらい、流域全体の自然保護につなげていきます。

取組キーワード

森林

河川

ふれあい活動の整備

地産地消

環境教育・普及啓発



枝打ちの実演



会場の写真